



「ちむどんどん」の舞台

朝の連続ドラマ「ちむどんどん」。主人公・暢子の故郷は「やんばる(山原)」です。

「やんばる」とは「山々が連なり、鬱蒼とした常緑広葉樹の森が広がる地域」という意味で、地理的には沖縄本島の北部地方を差します。

ドラマの中に出てくる「共同売店」は集落の住民が共同で出資し運営する商店のことで、現在でも「やんばる」や離島に存在します。

コンビニエンスストアやスーパーが当たり前の現代でも、地理的に不便な「やんばる」では、のんびりとした時間が流れているのでしょうか。

珍鳥「ヤンバルクイナ」も生息する、自然豊かな「やんばる」地方。いつか訪れてみたい場所ですね。



「Eco列車でいこう！」～第156回～ いろんな乗り物で谷川岳を縦走。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！)

7月23日の夕方に湯沢町入り。県民割で「NASPAニューオータニ」に宿泊。広々とした大浴場でのんびりし、早めに就寝した。

翌朝、5:20に車でホテルを出発。コンビニ経由で新潟県最南端の駅「土樽」へ。駅前で同行者と登山道具を全部下して、その先の「茂倉新道登山口」へ。駐車場で荷台に乗せてきた自転車を組み立てて、土樽駅までサイクリングで戻る。歩くと40分の道を10分に短縮。体力も温存できた。

土樽駅からは6:28の上越線「水上」行に乗車。乗客はごくわずか。9分で隣駅、群馬県の「土合」着。坂道を20分歩いて、「谷川岳ロープウェイ」のりばへ。文明の利器で一気に標高を稼ぐ。せっかくなので、「観光リフト」にも乗車。ニッコウキスゲを眺めながら「天神峠」へ。

ここから、登山スタート。とはいえ、リフトで高い地点に来たので、最初は50mの下り。雨上がりで岩が滑るので慎重に。メインルートに合流すると、人が多くにぎやか。渋滞するほどではないが、ゆっくりペースで登っていく。「少し登っては、小ピーク」を繰り返して標高を稼ぐ。

この時点では、まだ曇り空。ガスがかかっている、眺望は望めない。「肩の小屋」で小休止し、少し登れば「トマノ耳」。さらに少しのアップダウンで谷川岳最高峰の「オキノ耳」だ。

オキノ耳は混雑していたが、もう少し奥まで進めば休憩しやすい。天気も回復してきた。さあ、お楽しみの縦走だ。この先は登山者がグッと少なくなる。

岩が多いので、慎重に進む。両サイドに色とりどりのお花が咲く。左は切れ落ちる谷、右はまだガスっているが、夏の青空が広がりはじめる。眼前に迫る「一ノ倉岳」を一気に登る。この急登はキツかった。そのご褒美のように、「茂倉岳」までの稜線はたおやか。天空の草原歩きを楽しむ。景色の良いところで、「冷やしラーメン」の昼食。茂倉岳から「矢場の頭」を経由して、「茂倉新道」経由で下山。矢場の頭からしばらくは、木の根っこを跨ぐ悪路が続き、体力を消耗したが、途中からはブナの美林に癒されて、下りきった。

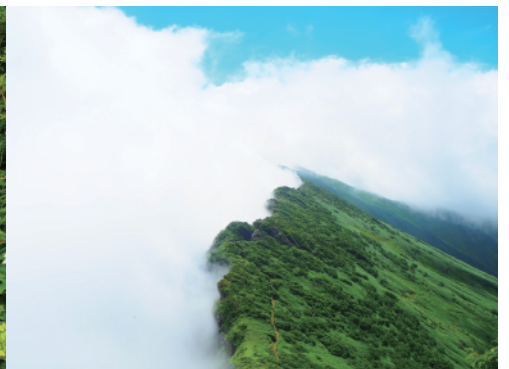
土樽駅で自転車を回収し、近くにある土樽共同浴場「岩の湯」(500円)で汗を流して帰宅した。



自転車を組み立てて「土樽駅」へ



夏のお花に癒されながら



新潟側から雲が沸き上がる尾根道に行く